

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本動物学会	4
日本免疫学会	4
日本エビジェネティクス研究会	2
日本人類遺伝学会	2
日本蛋白質科学会	2
日本農芸化学会	2
American Society for Microbiology 日本細菌学会 日本微生物生態学会 日本歯科保存学会 Bacterial Adherence and Biofilm	1
Genetic Society of America	1
Japan society of AIDS Research	1
NGS現場の会	1
バイオインフォマティクス学会	1
現在は所属していない。	1
再生医療学会	1
再生医療学会 皮膚科学会	1
人類遺伝学会、育種学会、	1
生物物理学会	1
日本RNA学会	1
日本ウイルス学会	1
日本ウイルス学会、日本肝臓学会	1
日本ウイルス学会、日本獣医学会	1
日本の学会にはとくに所属しておりません。	1
日本バイオインフォマティクス学会	1
日本化学会、バイオインフォマティクス学会、CBI学会、遺伝子診療学会	1
日本環境変異原学会	1
日本結晶学会 日本蛋白質科学会 日本農芸化学会	1
日本時間生物学会	1
日本植物学会 数理生物学会	1
日本神経化学会	1
日本神経化学会、日本再生医療学会	1
日本生物物理学会、日本生物工学会	1
日本生物物理学会 日本蛋白質科学会	1
日本生理学会	1
日本組織適合性学会、DNA多型学会	1
日本体力医学会、日本運動生理学会	1
日本畜産学会、日本繁殖生物学会	1
日本糖質学会、ウイルス学会	1
日本毒性学会 日本研究皮膚科学学会 日本蚕糸学会	1
日本肥満学会	1
日本病理学会、日本臨床細胞学会、日本がん検診学会、日本獣医腫瘍学会、日本婦人科腫瘍学会、日本産婦人科学会、家族性腫瘍学会、日本大腸肛門病学会、日本肝臓学会	1
日本放射線影響学会	1
日本薬学会	1
日本薬学会、日本薬理学会、日本RNA学会、酵母遺伝学フォーラム	1
北米神経科学学会	1
免疫学会	1

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答
 1.よかった
 2.学術講演以外はするべきではない
 3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	2つの課題に対しての実験的な企画を同時に実施するのはこのくらい大きい学会でないとできないと思うから。
※	1	今までタブーとされたいた研究者自身の倫理観を議論できたはよかった。学内ではこのような話をすると煙たがられる。
※	1	とにかく面白かった。巨大会だからこそ、領域を越えて研究者が交流できる場を提供できる。今回はその役割を見事に果たされたと思う。
※	1	実験とおなじようにいろいろと新しいことを試して行くことでよりよいモノが出来ると思うから。
※	1	成功・失敗を問わず、何かを変えようと大きな試み続けることにこそ意味がある。いつかきっと新しい芽が出ると信じる。
※	1	ガチ議論での議論の内容が濃密だったことと、研究者と社会との接点について研究者側の自覚が非常に甘いことを強く自覚することができたから。
※	1	会場にジャズが流れていたり、アートが掲載されていて、雰囲気良かった。
※	1	科学コミュニケーションを専門としています。アウトリーチ活動は暇な研究者が、あるいはボランティアでやるもの、という意識を持つ研究者がまだいます。学会全体として今回のような様々な方法で社会との接点を持つべきだというメッセージがでることは、とても私たちのような立場の人間にもありがたく思いました。
※	1	「学術講演以外はするべきではない」と回答する人間だけに任せた結果として分子生物学会のような大きな学会がつまらなくなったのだから、状況を打破するために今回のような試みはいずれ必要であった。
※	1	1. 事前に議論する場をウェブ上で設けるのは良かった。2. 見ていないのでわかりませんが、内輪で盛り上がっているだけじゃないのかなという気がしないわけでもありません。アウトリーチの本来の意味は何なのでしょう。
※	1	研究分野が広いと、こまかい研究についてはそれぞれ専門の学会なり研究会でやればよい。さまざまな企画が行われ、今後どういかにされていくかはわからないがとてもよい試みだったと思う。
※	1	研究者社会の問題は年月をかけてきちんと話し合われるべき問題だと思うし、アウトリーチに関しては、参加者としても楽しめたいし、分子生物学という名前を広めてもらっただけでもよかったのでは？
※	1	研究者個人ではできることに限界がある。学会が音頭をとって研究者の意見をまとめることは評価できる。
※	1	社会問題の解決に向けた試みとして、高く評価したい。生命科学をはじめとした研究を発展させたいならば、現状の雇用問題、男女共同参画、子育て支援や育休の充実などが絶対に必要だと思う。それらを研究者たちの中の嘆きで終わらせず、社会問題として世間に広く発信していかないと、結局「研究がよほど好きなんだね・・・」と無関心に受け止められてしまうことを実感しています。今回は行けなかったけれど、機会があったら是非この問題の解決に向けて努力したいと思った。
※	1	巨大会の意義や、市民へのアプローチという意味で賛同できる。
※	1	広い分野からの会員が集まっている学会だからこそ、そのような大きなテーマの企画をやるべきだと思います。ぶっちゃけ、本当にコアな専門分野の話は、もっと規模の小さい研究会か学会でもできるので、分生ならではの特色を生かして欲しいです。
※	1	学会全体が盛り上がったと思う。研究発表だけでは得られない熱気と挑戦を感じる大変充実した年会であった。
※	1	少なくとも何もしないよりはまだいい。
※	1	今までにない楽しい学会だった。楽しいのはいいことなので今後も続けて欲しい。
※	1	最近の学会は、マンネリ化している様な気がしていたから。
※	1	研究不正等の問題は皆で話し合うべきだと思うから。
※	1	年会長が言われたように、学会、特に分子生物学会のような大きな学会の役割というのは変わりつつあるのではないかと感じます。学会では例年通り研究発表も行われました。上記の内容に興味が無い人は参加しなかったと思われるし、参加しても他のセッションにさしきりない時間帯で行われました。分子生物学会では演題数が多いため他の小さな学会のように全ての内容をカバーするのは不可能です。今回のイベントも、個人の興味の程度で参加不参加を考えていくようなもので、私の場合は非常に興味がある点であったので良かったと思います。
※	1	ただ研究して、それを仲間内で成果を教えあうだけでは、社会への貢献が感じ取りにくい、今回のような企画をすることによって、広く社会に情報を伝えることによって、少なからずとも社会との繋がり、社会への還元が初めてできるのではないかとと思うので、今回のような企画は続けていってほしいです。また研究者社会の問題解決に関しても、とても良い企画かと思いました。このような企画を行うだけでなく、実現化し、本当に今ある問題を解決して欲しいです。「企画して、その会を開くだけで終わり」というものではあってほしくないです。
※	1	研究の領域を超えた様々な価値観を再確認できた。
※	1	巨大会のありかたに関する年会長の考え方にはおおむね賛成。
※	1	結果の賛否は別として 初の試みとして あれだけ多くの斬新なイベントを実行したのはよかったと思う。
※	1	そのような学会はこれまでなかったから。

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答 1.よかった
2.学術講演以外はするべきではない
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	学会、特に分生のような大きな学会では様々な研究者が集まる。その際に、学術的なことを論じるのも重要であるが、「研究者」というものがなにをしているのかを広める必要もあると考える。様々な分野・立場の人が集まったからこそできることをするのがよいと思うので、今回の取り組みにはとても賛同した。
※	1	学会会員が、研究者社会の諸問題を考え、それに対する解決策を導く努力をすることは、最終的に日本の科学研究の発展につながっていくと考えるため。
※	1	学術講演だけでなく、もっと小規模な学会で事足りることがほとんど。今回の年会は、マンモス学会の強みを活かしていたと思う。
※	1	巨大会は発表によって自分の研究が評価されるような認知の場として弱く、発表として魅力的な場でないという事実より学会としての意義や評価が低下するのは避けられないと言う点は共感します。それを踏まえて、本年は巨大会として何か出来る事と言う問いに、色々な試みの一環として取り組まれたイベントは問題提起という点からも良かったと思います。しかし発表の場として魅力をどう上げるかという点はまだ未解決であり、海外ポスドクの招聘などの取り組みもありましたが、この点については巨大会では限界があるのかも感じます。
※	1	(1)も(2)も、わずかな人数で行くと、できることに限界がありますし、どちらも体力の要る活動ですから、「学会でみんなで」というのはいい挑戦と思いました。
※	1	研究者の組合が必要。幅広い層の意見を取り入れるには大きな学会が担うのは理にかなっている。
※	1	学術的議論はもう少し小さな学会や会合でもできるが、今回のような企画は大きな学会として、会員の研究生生活のモチベーションを高める為の、新しい可能性、方向性を示す上で、意欲的な実験だったと思う。
※	1	多くの情報が簡単に取得できるようになったので、学術講演だけでは、もうあまり学会をやる意味はないと思っているため。
※	1	研究社会は自分たちの所属する社会であって、自分たちで管理、運営に関与していく必要があると考える。問題は限られた時間で各々の研究者がそのためにどのように時間を確保し、研究とのバランスを取っていかなくてはならないか。「(1),(2)が研究者の義務である」とするならばやはり必要であるし、それよりも「研究に対する時間が何よりも大切である」と考える研究者もいらっしゃるのではないかと。そのバランスをどのようにとっていくかが、今後の課題であり、今回の企画はよいきっかけになったと思います。
※	1	とりあえず個人レベルでの意識づけの機会を与えたのではないかと評価する。
※	1	日常では、なかなか考える機会がないので、学会等から発信して頂けると、他大学や企業の取り組みも知ることができるから。
※	1	どちらも重要性は認識されているが避けられがちな課題なので、学会で取り上げることに賛否両論あると思うが、プラスにせよマイナスにせよそうした反応をみることであったというだけでも意味はあると思う。研究者社会の問題に関しては、自身これまでまったく関心がなかったが、年会の企画によってこれまでの態度を改めようと思うきっかけになった。
※	1	海外ポスドク招聘企画に選んでいただき参加しました。この企画がなかったら参加は難しかったと思います。またすべての企画には参加できませんでしたが、参加するかどうかを決める際に、企画がおもしろそう、参加してみたいと思えるのがあったため、参加を決めたので、企画はよかったと思います。
※	1	例年よりも面白い、レベルの高い口頭発表が増えた。ワークショップやポスターセッションが盛り上がったように感じた。
※	1	巨大会にしかできない取り組みであり、日本の基礎研究を取り巻く環境を改善するブレイクスルーになったと感じます。
※	1	分子生物学会は医学系の学会のように社会に対して発信力を強化していくべき。それがひいては研究者の社会的立場の向上や研究体制の改善棟に繋がっていくと考える。
※	1	やらないよりは、絶対に良い。製薬業界の実情などキャリアプランをきちんと勉強できるようにしてあったのは良いと思う。研究室に居ると、就職するのが悪のような雰囲気も有り、外の世界を知らないで終わることも多いので。
※	1	通常の学会ではないようなセッションがいくつかあって、とても良かったと思う。
※	1	学術内容以外も重要だから
※	1	今回の大会でサイエンスは芸術のように人を感動させ、惹きつけるものであって欲しいと思うようになりました。芸術もそうですが、うちに閉じこもってしまうと良い方向に発展していかないとと思うので、一般の人や子供も分かるような楽しい企画を今後も続けていくことが、将来の研究者社会の発展に繋がると感じます。
※	1	とても良かったです。年会長の近藤滋先生が、学生から大御所の先生まで広く色々な人の意見を集め、それらを反映した企画を実現されたのは大変素晴らしいと思います。
※	1	ガチ議論は年回の新しい在り方を示していたと思う。このような試みは他の比較的規模の大きい学会でも行われるべきである。

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答
 1.よかった
 2.学術講演以外はするべきではない
 3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	学会の役割を再考したこと、今回提唱されたこの2点はいずれも賛同する。学会へ行っても、結局夜、久々に会った人と飲むだけだという話、発表も内輪でほめあっているだけだという批判をよく聞く。このような理由から、周囲には、学会に行く意味はないと言い切る人もたくさんいたためである。・アート企画はもっと早くに募集をかけてほしかった。出たかったのに出せなかった。・アート企画は、研究成果がなかなか出ていない状況にある人にとって、いろいろな人と出会えるチャンス、名前を覚えてもらえるチャンスだと思う。少なくとも知らない人との飲み会に突然行くよりも、ハードルが低いという人にとって有用だと考えられる。
※	2	学術講演以外すべきでは無い、と真っ向否定するわけではないが、一部主催者の自己満足の様な企画があったのは否めない。主催者側にその様な意図が無くても、参加者にそう思われたのであれば、仕様が無いのでは。
※	2	学会期間中にサイエンスアウトリサーチを行うと、その時間枠でもっとワークショップに充てる方が満足度は高いと思います。アウトリサーチに力を入れる分、学会の質が落ちたと正直感じました。学会でサイエンスアウトリサーチを企画する方が出張次いでで参加できるので経費や時間と手間を削減できるメリットはありますが、その前に学会の質が十分に保たれるような日程調整と企画を希望します。
※	2	疲れる。
※	3	Please organize the program more international research friendly. In this era of globalization, there is no border of researcher. So, science should be more open more interactive -friendly to contribute more in scientific world.
※	3	オンラインアンケートには答えたが、学会では企画に参加しなかったため。
※	3	ジャズとかアートとかいろいろやられていたみたいですが、あそこまで大規模にやる必要ないでしょう。シンポジウムとかワークショップがすくなくなっている気がして、物足りない。
※	3	行政を動かすほどの効果をもつとは思えないので、参加していない。ただし、アクションをとる事は重要なので、その点は評価できる。
※	3	コンセプト自体は悪くないと思うが、大会内容がどの程度それに即していたかという疑問に思う。目立つが散発的なイベントを企画するよりも、例えば生物系ではマグロの養殖やマンモスの復活、情報系ではプロに勝てる囲碁・将棋プログラムなどに代表される様な、世間的に解り易い問題設定を討論すべきではなかったかと思う。基盤部分には広範囲な研究が必要であり、研究者の雇用創出や個別問題の解決等に繋がりがやすくも、研究成果は世間的・経済的にインパクトのある、そんな課題を学会が音頭をとって立ち上げれば、良いサイクルに入れるのではないかと考えている。
※	3	私は、今までとの違いがいまいち分かりませんでした。問題は結局のところ、参加者の意識の問題だと思います。学会側は今後どのように、参加者の意識を変えていけるかが課題ではないのでしょうか。（続ければ変わる??）
※	3	企画に参加できる時間がなかったため
※	3	企画自体は良いと思うが、学術講演と重複する場合にそちらを優先、夜の部でのセッションも不参加で、最終日しかそのような企画には参加しなかった。しかし、学会が研究社会の問題に取り組んでいるという姿勢を見せるのはとても重要で、分生のような学際的で巨大な学会がそれに取り組んでいることはやはり効果的だと思う。
※	3	変化は必要だが、ジャズはうるさい。
※	3	色々なイベントがあつてよかったけれど、反省点も大いにあるように思います。例えば、全体的な雰囲気若干リベラルな方によってしまいがちなかなと思います自由度が増すと、個々の会員が気を引き締めなければならない点が多くなると考えております

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

質問7. 回答		理由記述
※	1	一部の企画だけでなく、どんどんウェブで放送すべきだ。
※	1	ガチ議論は日本のサイエンスの仕組みについて知らないことが多く、とても勉強になった。
※	1/2	海外ポスドク呼び寄せ企画については反対意見を持っています。将来国内のポストを取る上で海外に行かない方が良く考えて、敢えて国内に残っている人間もいるということを知って欲しいですし、そういう人間は海外での研究経験がない経歴というリスクを取って敢えてその道を選択しています。今回の学会は国内ポスドクは年会費と参加費と旅費を支払って参加しています。一方で海外ポスドクにその補助を与えるというのでは強い不公平感を感じます。海外ポスドクは様々な利点と引き換えに国内に戻れないリスクは覚悟しているはずであり、無理にそのバランスを崩してほしくないです。
※	1/2/3/4/5/6/7	SFTトークショー「2050年シンポジウム」は非常に面白く、強い刺激を受けた。自分のプレゼンテーションの方法について考えるいい機会になった。
※	1/2/3/4/5/6/7	日々の実験室での生活より、もう少し俯瞰的に自分を考えることができ、新しい学会の役割を探る上で、良かったと思う。
※	1/2/3/4/5/6/7	個々の企画が有機的に作用し、相乗効果を生み出していたと思います。私は海外ポスドク招聘企画で参加しましたが、このような機会がないと海外ポスドクはどんどん孤立してしまいます。本学会で得られた経験や人脈は今後の研究者人生における大きなステップになると強く感じました。
※	1/2/4/5/6/7	1.実際に議論を聞き、本気で取り組んでくれる人がいることを知って安心しました。2.参加できませんでしたが、内容はとても興味があるものでした。4.サイエンスにはアートの力がとても大切だと認識しています。5.エンターテイメントとしても面白かったのですが、実際に数十年後の研究テーマを考えながら、現在の研究を考えるということも面白いと気付くことが出来ました。6.研究を一般市民に分かりやすく発信することの大切さを再認識しました。7.この企画は海外ポスドクにとって、とても助けになると思います。また、日本の若い研究者にとっても、海外の最新の研究情報を得ることが出来るので、相互の利益がとても大きいと思います。
※	1/2/5/6/7	研究にはパッションが必要であり、どの企画にも各演者の暑いパッションが感じられた。
※	1/2/5/7	JAZZは免疫学会でにたようなのが昔有った気がする。アートは学会会場内で行うのではなく、一般向けに興味を持ってもらえそうな別時期にやるべきだと思う。SFTトークショーは、一般の人にも見てもらえる仕組みにして、研究者について等をアピールできるようにするとおおいと思う。
※	1/2/7	JAZZ、アートに関しては個人的には学会とは直接関係がなく、別途企画されたほうがいいのかと思います。学会中は大変忙しく、アートと接する時間はありませんでした。他のセッションは残念ながら参加できなかったのかわかりません。
※	1/2/7	研究者の視野を広げる試みは重要。製薬企業等、アカデミアにいるとなかなか知る事の難しい話を伺う事もできた。アカデミア以外の人材供給の場として、マスコミやサイエンスコミュニケーターなど様々な職種の紹介等もあるともっと活性化するのは。
※	1/3/4	音楽が流れる学会は良かった。他の分野(化学とか)でも、音楽を生かす取り組みがされているとのこと。分生も、アートや音楽との融合は今後も続けて欲しいと思います。なお、その他のものは、最終日には会場にいなかったので評価できません。
※	1/3/4	今までになく、アートに関しては、会場にあって和んだため。
※	1/3/4/5	2050年シンポジウムは、生命科学研究の未来を創造する上で自由度があつても面白いアプローチだと思う。ネタ的な部分も多かったが、未来を語る時にはやはりユーモアを含んだ内容であってほしいと思う。ガチ議論はちょっと空回り気味な部分もあったが、今後継続してより意義のある討論会へと発展させてほしい。参加者も混乱することを恐れずにもう少し増やしたらいいと思う。例えばポスドク代表、学生代表、PI代表等々、ネットでの声じゃなくて直接発言できる人を増やすべき。アートと音楽に関しては学会期間中にふっとリラックス出来る時間があつてもよかったと思う。またこの場での研究者同士の出会い交流もあった。
※	1/3/4/5/6	ガチ議論のような場は大規模学会でしか望めない。あくまでも場所によるが、Jazzとアートはあつてもよい。今までがなさ過ぎた。分子生物学系の学問に興味があるだけの一般人との接点を持たせるなら、エンタメ志向のトークショー、プレゼンテーション、討論はあった方がいい。実際の所は(一般人には)それでも敷居が高いと言われてそうではあるが...
※	1/3/4/5/6/7	素晴らしかった。
※	1/3/4/5/6/7	どれも今までにない企画だったから
※	1/3/4/5/6/7	2.を除き、年会特別企画のほとんどに参加しどれも楽しめたが、最終日のSFTトークショー、公開プレゼンテーションにたどり着くまで、盛りだくさんだったので若干疲れた。それぞれの企画に工夫が凝らしてあったので、それぞれを楽しむにはもっと企画数を絞っても良かったと思う。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

- 質問7. 回答
- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」 | 6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」 |
| 2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」 | 7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助) |
| 3. 「学会とJAZZの融合」 | 8. 特別企画全般について評価していない |
| 4. アート企画「サイエンスとアートの接点」 | 9. 特になし |
| 5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」 | |

※	質問7 回答	理由記述
※	1/3/4/5/ 6/7	JAZZ企画に参加させていただいたのですが、これまでの分生ではありえなかった貴重な出会いが沢山ありました。これまでの分生では人が多すぎて、既に知った方の発表で現状報告や進展を聞きに行く状態でした。しかし、今回の企画に参加したことで細胞生物学や分子生物学的知見から発生生物学を改めて議論できたことは勉強になりました。SFTトークショーなどもレベルが非常に高く、楽しめました。海外ポスドク招聘で来られている方もお話を聞くことができたのも今後の研究生活を考える上で参考になりました。
※	1/3/4/5/ 7	最も良かったと思うのはガチ議論。Twitterを介して聴衆参加型の議論が出来たのがとても良かった。海外ポスドク招聘企画は、招聘された人たちに参加してもらいポスドク問題を話し合えれば尚良かったと思う。3,4,5は面白かったのが良かったと思う。学会外の人にも分子生物学学会というものに興味を持ってもらいたい切欠になったと思う。
※	1/3/4/5/ 7	有益である上に楽しかった。
※	1/3/5/6	ポスドク招聘企画については、渡航直後の研究者は対象者に当てはまらないと聞いた。やるのであれば、海外渡航年数等にこだわらずに招待してほしいと感じた。ガチ議論は、Ustreamで視聴したのだが、登壇者の手元のフリップが見えないのが残念だった。議論は若干司会者の話したい路線に進んでいるようにも思えたのだが、中身はとてもよいもので、今後の発展のキッカケとなると感じた。
※	1/3/7	普段はなせない内容について議論できている。音楽があると、リラックス出来る。
※	1/4	今年度の年会のポスターは秀逸だった
※	1/4/5	11に関しては大変なご努力を払われて取り組まれたと思います。そのご尽力には頭が下がりました。4,5に関しては個人的に大変面白く、良かったのですが、5に関してはエンターテイメント的な要素を持たせたアウトリーチをおこなうには各メディアの協力が必要不可欠であり、本当に学会としてこの路線を発展させて進めるのか、または数年に一度のレベルでおこなうのか、そしてそれに伴う準備委員の方の時間と労力(とセンス?)など多大な負担がかかるために色々議論があることではと思いました。
※	1/4/5/6	「2050年シンポジウム」は、中にはふざけすぎた面もあったように思うが、未来への夢を語られたプレゼンテーションはよかった。「未来はこういうかたちに研究社会を変えたい」「分子生物学を使ってこういう未来をつくりたい」という夢を持った研究者はもっとたくさんいると思うので、またこういった企画を考えてもらいたい。
※	1/4/5/7	同窓会になりつつあること、分野が広すぎて情報収集が大変でできないことから、ここ数年は参加していません。しかし本年度年会長の試みは大いに評価すべきことであると考えます。自分は「分子生物学」という学問がとても好きなので、ただの同窓会ではなく国内の分子生物学者が一丸となってより良い研究を推進できるような場であってほしいと思っています。
※	1/4/7	アート企画が非常に良かった。普段、サイエンスしか考えていない人たちに大きな刺激を与えられたように思う。生命の美しさに通じるものがある。
※	1/4/7	アートは新鮮で楽しかった。
※	1/5	未来を考えることが重要。
※	1/5/6/7	分生学会の会員ではないが、ガチ議論や2050年シンポジウムなどの革新的な試みをぜひとも生で見てみたいと参加した。どちらも期待以上のものであり、来年以降も継続してほしいと思う。
※	1/7	同上
※	2	企業研究者の話聞いた。
※	2/3	音楽があるのは個人的には好ましいが、場所が限られており、すべての人間が目につく場所で行ったほうが良いかと思った。海外ポスドク招聘は、趣旨は良いと思うが、バラマキに近い気がした。国内にも恵まれないポスドクは多くいます。
※	2/3/4/5/ 6/7	様々な企画があり、どれも有意義だった。普段の学会や仕事では出会わない先生方と、特別企画において知り合う事ができた。海外ポスドク招聘企画にて参加したが、自分が海外留学する前にこのような企画があったら、この企画のみにでも学会に参加したと思った。海外ポスドクがまとまって集まって交流できるような企画は学会主体では無かったので、次回は留学を考えている学生さんなどに何かしら経験などを還元できるような機会があればと思う。
※	2/7	特別シンポジウムは内容的に興味深かった。
※	2/7	海外ポスドクの旅費の補助は、10万円でもとてもありがたいが、20万円ならもっと良かった。ほとんどの海外ポスドクが欧米から参加していることを考えると、10万円では往復飛行機代全額をカバーすることが出来ないの。「創業」のシンポジウムは、米国ベンチャー企業のかたのお話はすごく面白かったが、逆にそのせいで国内大手製薬のかたの話は、魅力に欠けるように感じられた。海外ポスドクのリクルートを目的にこのシンポジウムを開催されているなら、国内製薬のかただけが話をするシンポジウムにしたほうが良かったのではないと思う。
※	3/4	アウトリーチという以外に、研究以外の話題を通して分子生物学会の中でも異なる分野の研究者同士の接点になっていたのではないかと予想します。また、展示会場の休憩場所付近でのオープンリハは、休憩している人たちにとって、あの音楽があるだけでリラックスできる場になっており、とても良かった。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

質問7. 回答

1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」
2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」
3. 「学会とJAZZの融合」
4. アート企画「サイエンスとアートの接点」
5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」
6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」
7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助)
8. 特別企画全般について評価していない
9. 特になし

※	質問7 回答	理由記述
※	3/4	JAZZは楽しみにしていたが、素人からみても聞くに耐えないレベルで、非常に残念だった。せっかくみんなの前でやるのですから、もう少し事前に練習して欲しかったが、片手間なので、仕方がないのでしょうか。アート企画は、非常に面白く、感心するものもあり、ポスターの合間の息抜きとして、非常によかったと思います。
※	3/4	自分が参加してめいっばい楽しませてもらったから。
※	3/4	すみません、全日参加ではなかったので、参加したものののみ「良かった」と評価しましたが、周りの評判を聞くにすべて良い企画だったと思います。アートもジャズも、学術以外の部分からでも人脈形成できる、良いきっかけになっていたと思います。
※	3/4	3. いい演奏が聴けて、単純によかったです。4. 口頭発表の会場で流れていたアニメがおもしろかったです。諸事情により、それら以外の企画には参加できなかったため、評価ができません(ほんとうは5. には参加したかったです)。
※	3/4/5/7	学術レベルでの交流以外のものが生まれると思うので。
※	3/4/6/7	海外から参加したので、トラベルグラントは大変助かりました。また、音楽を取り入れるという試みは大変面白いと思いました。
※	3/4/7	その他については 人があふれていて入場できなかった。
※	3/4/7	子連れ参加だったので、会場内で子供と楽しめる企画があったのは良かったです。
※	3/4/7	今回海外ポスドクと話す機会が、学会の後の懇親会でできて有意義だった
※	3/5/6/7	いずれもチャレンジングな企画であるから、そのどれもが万人から評価されるものではないだろうが、本業の合間に企画し、実行することができたという意味では、全ての企画が非常に良かったと考えている。
※	3/7	ホテルのロビーでピアノが流れていて、心なごんだから。また、海外にいる若手研究者へ支援することは、単に海外へ行くことを促すだけではなく、日をへ戻る機会を作ることも重要だと思う。でない、誰も海外へ行きたがらなくなるのでは。誰だって故郷に帰りたいものです。
※	3/7	学会会場に音楽があるのは良かった。海外のポスドクがたくさん居て、海外のトレンドにも触れることができ良かった。海外のポスドクにトークする場を与えても良いのではないかなと思う。
※	7	日本の学会はアジア諸国の方が何割か参加されるようになりましたが、特別講演者以外の欧米諸国の参加者が殆どいない状況で、世界規模の研究発表を聞くことは難しい状況です。しかし海外の学会は世界規模の研究者が参加して活気溢れるものばかりで、日本国内の学会と全く異なります。そのため、海外でポスドクをされている日本人研究者を国内学会に参加してもらえるような支援体制があり、その方を通じて海外研究者の方の参加を促してもらえるような企画を今後も継続して希望します
※	7	Q6への回答と同じ。
※	7	補助があれば帰国しやすくなるだろうし、海外ラボや研究状況などについての生の情報を得られる点で日本にいる者にとってもメリットが大きいと思う。
※	8	後々ネット配信等でアーカイブ化するのであれば、特別企画はもっと核となる話題を絞ったセッションを複数実施して、興味のある人がより参加しやすくなる様に設定し、後から他の分野も動画で参照できる様にした方が良かった。アート企画に関しては、ポスター会場でやや浮いている上に、所属や氏名くらいは解り易い統一フォーマットにして欲しかった。どうせなら、軽食兼雑談コーナーを広めにして、JAZZと同じ空間でアート展示した方が良かった様に思われる。
※	9	参加する人は熱心に多くの特別企画に参加するが、参加しない人は一切参加しないような気がする。
※	9	色物感があり、どれも良いとは思えなかった。
※	9	参加していない
※	9	特に興味をもつ企画はなかった。
※	9	ガチ議論とか面白そうでしたが、夜だったので参加せずに、旧友と飲みに行っちゃいました。いつの時間がいいのか難しいと思いますが、これら企画の時間はもう少し考えたほうがいいと思います。

質問9. ITシステム全般について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	ITについていけないオジサンのための革新的な情報インタラクションのアイデアももって出てくると良いなあ。
※	プログラムのシステムはとても良くできていたと思います。スケジュールなども見やすかったです。
※	昨年よりも随所に改善点が見つけれ、開発者の方には感謝している。当然紙媒体の方が良いという人もいるわけで、完全にオンラインのみに移行することはしばらくは難しいだろうが、これからも継続してじょじょに良くなっていくことで、選択肢として魅力的になればいいし、それによって経費削減などにつながればいいと思う。もし可能であれば、システムが小さな学会や研究会で再利用できるよう、オープンソースでフレームワークを公開して欲しい。
※	発表要旨は前回までの様に、一つひとつ独立したpdfで落とせるようにして欲しい。意外と目的の前後は不必要だったりするので。スマホとタブレットではインターフェースが違う方が見やすいかとも思ったが技術的には難しいのでしょうか。
※	基本的にどこでも無線が拾えたのは非常によかったです。検索はひどかった。どうして東京大学で検索して東京工業大学や東京農工大学などなど出てくるのか。欲しい情報が探し出せなかった。
※	「like」のつかなかった学生のモチベーションを維持するのが大変だった。そのようなテーマを与えた側に原因があると言われればそのとおり。
※	紙媒体の要旨集やプログラム集は余白にメモをとることができるのでそのようなことが可能であれば、より便利になる
※	使い勝手がよくないのか私がいまいち使えていないのかわからないが、なかなか有効活用できなかった。
※	どの会場でも、いつでもインターネットで検索が可能なのは、とても便利でした。特に、海外から来て、日本で使える携帯電話を持っておりませんでしたので、メール等で連絡が取れるのは便利でした。
※	ポスター会場から少し離れるとLANがつかなくなりました。とくに、会場移動の途中や外の休憩場所での要旨チェックができないのはもったいないと思いました。
※	特にsecret like modelはよかった。自分のスケジュールが一元管理できるのは本当にありがたい。少なくとも今年のシステム機能くらいでないと冊子が不可欠になってしまう。
※	参加していないので良く分かりません。
※	重い冊子を持ち歩かなくていいという意味では、よかったが、まだ紙媒体に慣れているためか、特にポスターは分かりづらかった。
※	スマホやタブレットの使用が想定されているようだが、よほどインターフェイスが簡素で直感的でないと見難いし、余計な手間をかけさせられていると感じる。
※	Like/secret likeを選んでからでないとスケジュールをくめないのは妙な感じがしました。likeはoptionalでsecret likeというのはいらないのではと思いました。
※	世の中全般、IT化の中、資源節約ということで、だいぶIT化されてきていますが、スマートフォン・タブレット・ipad・軽量ノートPCを持っていない人にとっては、非常に動きにくい状況になってしまっているのも現状だと思います。その辺りの対策もあるとより良くなっていくのではないのでしょうか。スマートフォンでの検索も結構面倒と聞きました。
※	つながりにくくなることがあったのが残念です。インフラの強度は課題かと。
※	検索機能に、所属名での検索ができるようにしてほしい。
※	チェックしたポスターを番号順に表示して欲しかった。
※	このようなシステム自体は評価するが、やはりオフラインでも動き、見た目はやや地味だが軽快で必要な機能に特化している生化学会のアプリの方が、全てにおいて上回っていた。似たようなアプリを使う学会も多いので、他学会と共通のシステムにすれば慣れるまでの無駄な時間の浪費の節約にもなると思われる。like機能等に関しても、結局何についてLikeなのか解り難い気がした。例えば、ポスター賞の投票と連動したLikeと、各研究者個人のブックマーク機能に分けていけば、前者は純粋に出来る良いポスターとして若年研究者の模範となり、後者は同じ分野・興味の研究者ネットワーク形成の補助に使えられると思われる。
※	検索ボタン(虫めがね)がわかりづらかったが、Myスケジュールは大いに役立った。
※	各ページから他のページに移動する、前のページに戻るなどの操作に少し扱いにくい部分があった点と、前年のオンライン要旨ではタイムラインに沿ったプログラム表示などの工夫があったが、今回はなかった点を改善して欲しい。
※	ITシステムはすごくよかったです。重たいスケジュール冊子を持ち歩く必要がなかった。会場でも何人もの人がタブレットを持ち歩いているのをみたので、皆さん活用されていたと思います。
※	検索は便利だったが、日付ごとの絞り込みなどのフィルタ機能が欲しかった
※	基本的にはとても使いやすいシステムだったので、今後もこのようなシステムを続けて欲しいが、検索機能のみ最悪だった。よくわからない検索結果が大量に出てきて、使い物にならなかった。
※	ポスター演題の検索が難しかった。自分がピックアップした演題の要旨をまとめてプリントアウトできるシステムがあればよかった。
※	まだまだ改善の余地はあると思うが、紙の冊子は必要なかった。書き込み欄などのコミュニケーションツールは知らない人に対しては使うのに抵抗があった。もう少し気楽に使えるような工夫(自己紹介など?)が必要かもしれない。
※	システムとしては、WebページよりiPhone/Androidアプリの方が良かったと思います。求職中/大学院生募集中/恋人募集中フラグは素晴らしい試みです！特に周りの若い学生さんからは大評判でした。
※	・データが重いのか、スクロールが動きにくかった。・もっと各演題や各演者に、関連リンクを充実させてほしい。・会場がいろいろな建物に分散しているので、移動中、wifiが切れるのが困った。オフラインでも見られるコンテンツが欲しかった。

質問10. 本年度プログラム集の軽量化について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	演題検索システムが貧弱すぎる。もっと充実させて、完全なpaperless化を目指すべき。nameバッジの郵送もやめて、各自印刷してもらえば郵送や印刷コストも下げられます。
※	IT化の推進は結構だが、あくまでオプションの一つにすべき。ポスドクは貧乏暇なしで、タブレット端末を買う余裕などない。
※	ポスター要旨のpdf版は欲しかったかも
※	必要な人だけ有料で提供でよいと思います。
※	1と3は相反しますが、ポスターの演題名一覧は欲しかったなあ、と思います。内容の詳細はネットで見られれば充分ですが、ゼロから興味あるタイトルをネットで探すのは結構面倒でした。
※	分厚い抄録集を抱えて移動しなくて済むのは、とても楽ですし、また紙の節約にもなります。今回のような、簡易プログラム集+電子抄録集の組み合わせはとても素晴らしいと思います。
※	今回のプログラム程度だと必要ないです。発行するなら、ポスター演題まで載っているほうがよいです。
※	ITだけでは やはり ポスターが探しにくかった。
※	ポスターの表題は、冊子に載せて欲しい。
※	企業広告ページこそ削除すべきである。カバーも薄いもので良い。バイオテクノロジーセミナーに関して、各セミナーに1ページずつ使用するのは無駄である。セミナータイトルと企業名のリストだけで十分である。
※	ネットで要旨を閲覧できる期限を設けるべきでは無い。もしくは少なくとも10年は可能にしてほしい。
※	演者数の限定、Running Titleやet al.表記の使用、演者とAcknowledgementの厳密化(研究公正性の確保に直結する問題)などを行えば文字数を抑えられ、代表演者・所属略称・Running Titleのみの簡易ポスター演題集込みでも十分軽量のプログラムは可能と思われる。またオンライン抄録が期限付きならば、別途希望者には抄録付の印刷物を有料配布していくべきである。
※	参加者全員にはプログラム集冊子印刷版は必要ないのではないか。ただし、全体の内容をざっくり把握するには紙媒体が都合がよいので、必要であれば演題登録の際に無料(学会参加費に含む)で請求できる、という感じにしたらどうか。研究室に一冊あればよい。
※	スマートフォン、タブレットを持っていない参加者に対する配慮が足りないと感じた。これまでの携帯でも使える簡易的なシステムがあった方がよいと思う。
※	軽いダイジェスト板が良いが、そのためにはアプリが必須。また、希望者には冊子をきちんと配布する選択肢を参加登録時に出来るようにすると良いと思う。
※	希望者には冊子版演題プログラムを配布できるようにしてもよいかもしれない
※	今回のオンラインプログラムがすごく使いやすかったので、プログラム冊子はなくても良いと思う。
※	電子システムがもう少し使いやすくなったら、地図の紙一枚だけでもよいと思う。

質問11. シンポジウムについて（その他）

※	その他記述
※	以前に学会に参加したときに(横浜だったと思います)会場の外で、発表がテレビに映し出されていました。複数の興味のあるセッションがあるときに、出たり入ったりせずに(特に混んでいる場合)外で聞けるのはよかったです。次回ご検討下さい。(ワークショップも同じ。セッションによって参加者数にむらがありました)
※	そもそもシンポジウムとワークショップの違いが曖昧だと思う。ワークショップと同じ時間に行われるので、シンポジウムに行ったことは一度もない。
※	最高水準の内容かと言われると、そうではない。もっとホットな演者と内容にして欲しい。
※	似たジャンルのシンポジウムやワークショップの時間が重なっていて、両方みたいとき等が有り、非常にもったいなかった。後、会場が狭かったのか、途中で移動しようとする、会場に入れなかったりした。

質問12. ワークショップについて（その他）

※	その他記述
※	シンポジウム参照
※	一般演題からの口頭発表の採択がなかったのには非常にかっかりした。これでは、コネクションがある方しか口頭発表できないし、仲間内の発表となんら変わらない。もう一度採択方法を考え直す必要があると思う。
※	分野の近いセッションが同じ時間帯に重なっていたのは残念だった。日程の都合上、仕方ない面もあるが、もう少しバラしてほしい。
※	数が多すぎる
※	人がはみだしている会場がある一方で、大きい会場なのに人が思ったより入っていないようなものもあったように思います。どのテーマをどの大きさの会場で行うかということの見極めは難しいことと思いますが、来年は適切に割り振ってほしいです。
※	多い
※	テーマの偏りが気になる。自分の発表分野がないために参加を取り止めた研究者が多くいた。
※	公開時全てのセッションに空き枠を作って、演者を広く募集したほうがよい。
※	シンポジウムの欄にも記入したが、時間割や会場サイズをきちんと考えて欲しい。
※	talkがなくなってワークショップに集約された分、ワークショップの水準が平均して例年より高くなっていたので面白かった。しかし、セッション数が減っている分、どの部屋も混雑していて一日中立ち見しなければならなかったのが疲れた。
※	ワークショップのタイトルから発表内容が推測しにくいものが多かった。
※	・同じ時間にたくさんワークショップやシンポジウムが重なりすぎていて、聞きたいのに聞けないものがたくさんあった。残念だった。時間がかぶらないようにしてほしい。もしくは、会場を近くして行き来しやすいようにしてほしい。・もっと演者がバラエティに富んでいてもいいのでは。内輪でかたまっていて、研究領域の班会議のようだった。

質問13. 一般演題について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	ポスター会場が一つだけ遠かったのが不便だった。
※	会場が3か所に分かれて散り散りパラバラなのは何とか改善していただきたい。
※	事前に確認しているとはいえ、数が多いと探すだけで時間がかかるため、ジャンルごとの色分けやその他の工夫でより分かりやすくすることができればより良くなると思う。
※	面白いポスターがあっても時間が少なすぎる為、発表者と話ができない。一日あたりのポスター数を減らすか、発表時間を増やしてほしい。今回のようにシンポジウムやワークショップの内容が偏っていると興味ある発表がほぼ全てポスターのみであったため、なおさらその必要性を感じた。
※	6が無くなったことから、学会を脱退することを考えている。
※	結局、ポスターの時間は6時までだったのでしょか。フリーディスカッションの6~7時は誰も活用せず、さっさと撤収していましたが。
※	各分野を連日発表するのは悪いことではないが、十分に時間をとれなかった今回は、日程の都合で見ることのできないものもあったのが残念。
※	複数のポスター会場の間が離れていた
※	6時過ぎにはほとんどのポスターがはがされてしまっていたので、議論できなかったものもあり、残念でした。
※	現状のように口頭発表がシンポジウムとワークショップだけだと、学生やポスドクが新たに研究成果を発表する際に、口頭発表できる機会が無い。
※	ポスター数に対して時間が短すぎます。特にセッション全てに参加している場合は不可能です。演題数を抑える必要もあるかもしれません。
※	ポスターの会場の場所は最悪だった。会場1と2, 3が離れ過ぎていて行き来できなかった。この配置は理解できない。私の周りの人もポスターの会場設置が最悪だと言っていた。企業ブースの圧力に負けたのだろう。来年から改善されることを期待する。
※	会場配置に不満が残った。特にポスター会場1と2, 3が離れていたために、聞きに行きたいポスターがあっても演者がいる時間に移動できないこともあった。大きい学会なので、会場が散らばるのは仕方ないが、ポスター会場は移動時間が少ない場所に固めてほしい。
※	ポスター会場は、1箇所で行って欲しい。また討論の時間をもっと長くして欲しい。演者にとっても、観るほうにとっても、時間があまりにも短い。
※	ポスター発表の数が多いので、発表時間を一時間半ぐらいに伸ばしてほしいです。
※	時間帯をもう少し早めにしてほしい。
※	ポスター会場が離れているのが良くなかった
※	ポスター会場は1個の建物がいいです。面積的に無理でしたら、会場どうしは近くに置いてほしかったです。それが難しいようであれば、せめて、ポートピアホール側の入り口からアクセスできるようにするなど、行き来がたやすくなるような工夫がほしかったです。
※	今回はポスター会場1だけが離れ過ぎていたので、2・3で発表・討論中に合間をぬって見に行くのが難しかった。ポスターの衝立間隔等を工夫したり、展示会場1・2や第11~14会場となった会議室などを上手くやりくりしたりする事で、ホテルの向こう側と行き来しなくても良い会場編成が出来たと思われる。
※	ポスターから口頭発表採択がないシステムはポスター発表者からすれば気楽であるが、若手に口頭発表の機会が少なくなるのはよくないのかもしれない。
※	時間はよかったが、18時でポスターを撤去する人が多く、ポスターを見切れなかったのが、注意喚起してほしい。
※	海外からポスドク招聘企画で来ましたが、1時間のポスター発表で来てくれるのはせいぜいもとの知り合いくらいで、しかも3-4組くらいが限度かと思いました。できれば口頭発表して、もっと自分が海外でやってきたことを知ってほしかったですが、海外にいるため、オーガナイザーの先生とのつながりもなく、そういうチャンスが全くなかったのは残念でした。
※	会場が離れているのは大きな問題。演題数を絞り込んででも会場を一つ、最低限一つの建物にまとめるべき。
※	生命世界を問うを聞きたかったが、時間的に厳しかったので帰ってしまった。大昼食会を後ろにして欲しかった。
※	ポスター発表の数が多すぎて見きれなかった。特に会場が離れているのは致命的だと感じた。
※	今回はポスターのみの募集だったからか、学生の参加が非常に多かった印象を受けたので、ポスターのみ募集もありだと思った。
※	あくまで自分の都合のせいだが、3日目以降しか参加できないにも関わらず、1-2日目に興味のあるセッションが集中して残念だった。
※	ポスターの1日の数は今は限界に近いです。日程を増やしても1日のポスターの数を減らすことが出来れば、と個人的には思います(難しいでしょうけれど)。
※	・自分に関係のある研究分野は、時間がかぶっていて行けなかった。・討論の時間をもっと長くしてほしい。ポスター会場が1つ離れすぎていて、聞きに行くことができなかった。このような配置にするならば、移動の時間も考慮に入れた時間設定してほしい。・演者には確実にポスターの前にいてほしい。

質問14. 高校生の発表(年会参加)について (その他)

※	その他記述
※	高校生のポスター発表の位置を一般演題の会場と一緒にしたほうが良かったのではないだろうか。はなれたポスター会場の隅にあるいめーじがあった。ポスター会場2, 3に近いほうがもっと様々な人が訪れたのではないだろうか。
※	去年の学会では参加したが、良い企画であると思う。

質問15. 企業説明会 & リクルートブースについて（その他）

※	その他記述
※	ポスター会場に併設するなど、もうちょっと人が集まる工夫をしては？
※	参加はしていませんが、就職活動の激化につながるのではという懸念はあります。
※	ポスター会場と同じ場所でやって欲しい。

質問16. 本年会の規模について（その他）

※	その他記述
※	これは神戸に限らないが、基本的に会場のキャパシティが不足している。オーラル会場では、なかに入れない人が外にあふれている。後ろからでは口頭発表のスクリーンが見えない。ポスター会場が分散すぎて、移動に疲れる、間に合わない。もう神戸ではやめた方がいいのでは？東京ビックサイトか？あるいは思い切って学会期間を6日間に延長して、1日あたりの発表数を30%程度減らすのも一案では？
※	ワークショップの会場が満員で立ち見や床に座っての聴講があった。会場の大きさを考慮し、他会場やエントリーでの映像配信等の工夫が必要と思う。
※	大きすぎるとは感じるが、解決策は思いつかない。
※	参加していないのでわからない
※	わからない
※	会場が分散しすぎていたため、会場間の移動時間が無駄である。特にポスター会場は、もう少しつめることができたと思う。参加者数に関する規模は、特に問題はないと感じた。
※	大きくはない。
※	現在の生物学は分子生物学的な解析は基本として行うため、どの分野の研究に携わっていても参加できる。異分野の発表を聞けるというメリットもあるため、必然的に人数が多くなるのは仕方がない。
※	福岡の会場の方が、まとまっていて行き来ができて良かった。
※	大きすぎる。ポスターが見きれない。時間が限られている以上会場を複数に分けるべきではない。数を絞って会場をまとめるべき。
※	とにかく、シンポジウム・ワークショップ会場が狭かった。
※	会場が分断されていなければ規模としては問題ない
※	個々のセッションの演題数や内容の広がり小さいので、もっと規模が大きいても良いと思う。ライフサイエンスの研究全体が俯瞰できるようにするには、もっと参加者が多いほうが良いと思う。

質問17. 年会の開催形式について <複数回答可> (合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか)

その他記述	件数
生化学会	3
日本生化学会	2
薬学系	1
日本免疫学会	1
日本生化学会との合同開催(毎年)。あるいはアメリカのExperimental Biologyのように日本解剖学会や日本生理学会とも合同開催。	1
日本生化学会(発表の中には、生化学会で発表したほうが受けがよさそうな内容のものも少なくなかったと思いますし、生化学会での発表も、分子生物学会寄りな内容のものが例年多いです)	1
日本細菌学会	1
生化学会、細胞生物学会、農芸化学会	1
生化学会、細胞生物学会、神経科学会、遺伝学会、生理学会	1
生化学、細胞、発生、動物、遺伝	1
バイオインフォマティクス学会、日本生化学会	1

質問17. 年会の開催形式について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	基本的に似たような学会が多すぎる。毎年違う小中規模の学会と合同開催することを基本とし、相互の交流を図りながら、負担を減らすことを目指すほうがよいのでは？
※	今大会のような革新的な企画は、他学会との合同開催では難しいだろうから、単独で良い。その分、本会はずっと革新的な試みを続けてほしい。
※	学会そのものを日本生化学会と合併するとかしないという話がずっと出ているが、そちらを先に決断した方が良いと思う。
※	特に希望なし。
※	どのような他学会との合同開催でも、分子生物学会のように巨大会では人数が多いために特に異分野間の交流の場が増えることはなく、真面目に共同開催の意義として考えるのであればあまり合同にする意味はないように思われます。また学会間での運営側の方針の違いによる不都合や、運営上の主導権争いなどが起こる事を危惧します。
※	単独開催、合同開催、適当にどちらもあればよい。単独開催の場合、生化学会年会と開催時期が近すぎるのが残念。
※	過去何度かあった生化学会との共催に拘るつもりは無いが、研究者のフィールドが結構重複している生化学会と分子生物学会との間隔が3ヶ月というのは正直厳しい。2~3ヶ月程度しか開かないのならば共催にすべきと思われるし、逆に5~6ヶ月開くならば単独開催の方が良い。また、神戸→横浜→神戸...の様にある程度場所を固定化して東西日本を行き来する事、12月上旬に開催する事など、ある程度根幹となる開催概要を固定してもらった方が、多くの研究者にとっては予定が立て易いと思われる。そういう「ブレない大きな学会」という認識が広がれば、類似分野の他学会との共催は自然とこなれて良くと思われる。
※	関連学会を統合してしまっ、生物学会などにし、その中で分科会をするなどの統廃合をした方が、参加者としては良いと思う。
※	単独開催、合同開催、連続開催の年が交互に行われれば、面白いと思います。
※	これ以上規模が大きくなるのは、会場の移動も大変になるし、演題もぎっちり詰まってしまうので良くないと思う。従って、単独開催にしてほしい。

質問18. 理事会企画のフォーラムについて（その他）

※	その他記述
※	倫理観は教育で解決できる問題ではない。そうでないものが教授になる現行のシステムも見直す必要があると思う。つまり、教育者の選別が必要である。
※	夜やれば良い。研究発表が聞けない。
※	もっと多くの会員が参加しやすい時間帯にしてほしかった
※	参加していないが、良い試みだと思う。
※	参加したかったのですが、シンポジウム等と重なっており参加できませんでした。
※	毎日新聞にとりあげられていたが、『議論は活発だったが、空席がめだった』ということだった。そのとおりと思う(部屋の後部から撮影した写真ではほとんど参加者がいなかった)。他の企画を減らしてでもここに力を入れるべきだったと思う。
※	取り組み自体は評価するが、参加者が少なかった。多分大多数は自分に関わりのないことだという認識で、この問題に対する関心の低さを物語っている。関わりがなければそれに越したことはない問題だが、なぜ学会として取り組む必要があったのか、なにが問題となっているのか、もっと各自の問題意識を喚起する工夫が必要。
※	他の企画とかぶらない時間にしてほしかった。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	若手の発案者のワークショップを多く採用されていたのがとても良かった。今後も新しい挑戦を続けて頂きたい。
※	三回目の年会への参加であったが、今回が一番素晴らしかった。特にワークショップ、シンポジウムの内容が本当に素晴らしかった。今後も一般演題はポスターのみにして、口頭発表は今回のように座長がオーガナイズする形式を踏襲してほしい。来年も参加したいです。
※	「いいね！」の数が多いポスターのランキングを表示するサービスを。
※	海外ポスドク呼び寄せ企画については反対意見を持っています。将来国内のポストを取る上で海外に行かない方が良く考えて、敢えて国内に残っている人間もいるということを知って欲しいですし、そういう人間は海外での研究経験がない経歴というリスクを取って敢えてその道を選択しています。今回の学会は国内ポスドクは年会費と参加費と旅費を支払って参加しています。一方で海外ポスドクにその補助を与えるというのでは強い不公平感を感じます。海外ポスドクは様々な利点と引き換えに国内に戻れないリスクは覚悟しているはずであり、無理にそのバランスを崩してほしくないです。
※	コンテンツはどれも非常に魅力的であったが、それだけに会場の配置や導線の悪さが残念だった。しかしそう思わせられるだけあって、参加したものはどの企画も大変有意義なものであった。また、派手なアウトリーチ企画などに隠れていたが、近年の実験技術や装置の進展に伴ってか、学術講演も出席したどれも非常に刺激的で、有意義なものばかりであった。その中で、来年に向けて改善できそうなのはポスター発表ではなかろうか。学部生の発表練習なんだか、ポスター発表をしたという事実が欲しいのだから、魅力的でない、話を聞きたいと思えないポスターの多さは、これだけ大規模な学会では非常に勿体無いと感じる。これで終わりとして、少しずつでも参加する研究者、またそうでない一般の方にとっても、有意義な学会となっていくよう、微力ながら協力していきたいと思う。
※	シンポジウム、ワークショップの会場は一部を除いてキャパシティが足りていなかったように思う。ただでさえ神戸は会場が分散していて大変なのにポスター会場まで分散しては自分の発表と同時発表のポスターを見に行くことすら出来ない。
※	口頭発表を復活させてほしい。
※	IT化は今後も推進してください。発表内容は日本にとって、研究推進にも重要な資産だと思います。うやむやにせず、未来永劫 サイトを閉じずに参照できるようにする(むしろ、1年後からは誰でも見られるようにすべき)と思います。共同研究先などを調べるのにも役に立つと思います。今回、いわゆる「本流」以外の企画が多かったですが、あれは年会長の意向が主でしょうか(だいぶ変更もありましたが、Perfume呼ぶ等)。一般からの企画の吸い上げもできればと思います。具体的には、こういうアンケートで来年度の企画をなど。この「本流」以外の企画に対して、(狙ってと思いますが)全部は評価はしていません。これによって大会費が上がっては本末転倒ですし、好評なものは次回もやる、不評なものはすっぱりやめる(例えば企画の半分は継続して次年度も、半分は入れ替えるとあらかじめ決めておく)ことを切に願います。
※	フォーラムの企画が、シンポジウムなどがぶつてしまい、参加できなかったため、日程面での工夫が必要だと思う。
※	会場が分散していて移動しにくかった。ポスター会場(第一)も、ホテル内の会場で照明が薄暗く、読みにくかった。研究発表に支障のない場所を確保してほしい。
※	企業展示ブースが隔離されており、また、シンポジウム・ワークショップ・ポスター発表と連続してある以上、そちらを犠牲にしなければ、ブースを見に行く時間を十分に確保できなかった。
※	深海や宇宙、進化(生命誕生やトランスポゾンとインプリンティングの関係など)の話題はいつも部屋一杯に人が集まるので、大きめの部屋で開催して欲しいです。天井の低い部屋は、スライドの投影が低くて真ん中の席でも見え辛いです。席の配置を工夫するなど、なんらかの改善ができればいいなと思います。
※	このような形で継続して欲しい。
※	来年以降も今回の様な前衛的な学会にまたしていただきたいです。
※	ポスター会場での椅子の設置、増やしてください・・・
※	今年の様な斬新な企画を立案、そして実施された年会長の近藤先生には本当に敬意を表する。この流れが次回以降の年会にも引き継がれることを切に願う。
※	今回の企画の全てに対して絶賛するつもりはないが、来年の横浜でもある程度は継続した方がいい企画(ガチ議論、理事会企画フォーラム)もある。これらについては複数年の継続を希望する。今回の様な新しい内容に対して批判的な意見があるという話も聞くが、そのような意見の持ち主がいても既得権の維持くらいにしか役に立たないだろうから、そのような人には今後の年会の運営に関わらせない位の姿勢で臨んだ方がいいのではないかな。
※	来年以降も色々今年の様な面白い企画をしてくれたら良いと思う。今回は日程の調整が出来ず残念ながら参加できなかったが、来年以降も可能なかぎり参加を検討していきたい。
※	研究不正、パワハラ等、今後も話し合うべきと思う。
※	もっと簡素化して欲しい。
※	学会の学術的な内容以外に、学生のお祭りという感じの要素が多すぎる気がする。それがこの学会の目指すところなのかもしれないが、特に合コンパーティーや彼氏彼女募集中などは、一部の参加者には受けるのかもしれないが、私の周囲では非常に評判が悪く、とても参加する気がしない催しであり、学会としてそのような企画をすることに対して恥ずかしさを感じた。他の学会と比べても、この学会では年会をお祭り騒ぎとみているようで、まじめに取り組んでいる感じがしない。そういう学会なのではないか？
※	特にガチ議論を高く評価します。分子生物学会だからこそ国会議員、文科省の人等来てくださったと思いますし、あのような機会は他ではなかったと思います。ただサイエンティスト側が聞く側に回っていたように感じます。次回はもっといいものになると思います。
※	今回の試みが1回だけのものに終わらず、継続して行われるよう強く望みます

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	一般の演題はポスターか口頭かになるようにしてほしい。口頭発表の人は口頭のみで良いのでは。(今までポスターと口頭両方やっていたので)今年度の新企画は評判が良かったので、来年度からも続けてほしいです。ポスター発表の時間も今年くらいで、それより遅くなるようにはしない方が良いかと思います。
※	パシフィコとポートアイランドはもう飽きた。他にできそうな大きな会場ないですか？
※	サイエンスにはコミュニティを楽しむ雰囲気也不可欠です。ジャズイベント、2050年シンポジウム、海外ポスドク招聘企画など今年の年会の多くのすばらしい企画・制度を来年以降も継承されると良いと思います。
※	新しいチャレンジがいくつもあって楽しめた。こういうことは続けていってほしい。ただポスター会場の場所や、口頭発表採択方法など改善して欲しいところはある。
※	ポスター会場が分かれているのは非常に不便。
※	規模が大きいのでしょがないとは思いますが、会場がバラバラで移動が大変だった。
※	今までにない学会の形で楽しめました。毎年すべての企画を行うのは難しいとは思いますが、毎年やるもの、隔年や数年に1回のもの、というように継続するのがよいかと思えます。たとえば、高校生ポスター発表や公開プレゼンテーションは毎年、SFTークショーは5年に1回、といったような感じで。新しい形の学会を作っていくことには賛同します。
※	学会に新たな企画を盛り込んでいくのはとても面白いと思えます。IT化もとても役に立っていると思えますし、時代のニーズに沿った斬新な企画をどんどん行って欲しいと思えます。
※	分子生物学会には何度も参加しておりますが、学術的な内容とは別の意味で学会を「面白い」と感じたのは今回が初めてでした。来年以降もこの流れを引き継いでいただけますようお願いいたします。
※	今回の挑戦を無駄にせず、ぜひ来年以降も画期的な企画を行ってほしい。
※	本年の年会は大イベントのノリで学会からの問題提起をおこないましたが、来年以降も大がかりでなくても良いので、何らかの問題提起があれば期待します。ただ来年以降の年会長の方はどう問題提起をおこなうのか、正直に言って困っておられるのではと思います。期待しております。本年の準備委員の皆様におかれてましては本当にお疲れ様でございます。
※	ITシステムは、今後も続けて欲しい。
※	・特別企画のひとつだったバイオデータベースのブースは、設置した場所が失敗だったと思います。ポスター会場に設置してあったほうが、お客さんは来たと思います。内容は勉強になるものが多かっただけに残念です。
※	総会では今年の意欲的な取り組みを来年は継続しないような発言もあったかと思うが、数年はこの方向性で試してみるのも、この学会がなにか面白いことをやっている、と社会に発信する為にも良いと思う。
※	年々寂れていく生化学会に比べれば、分子生物学会は活気があり、今回も変革・改善していこうという気合は十二分に感じられた。ただ、今回に関しては、それらが研究現場の実情に見合った物かという疑問符が付く。ポスター演題やワークショップはこれくらい多くても学会に見合った物だと思うが、人材や研究環境の問題まで一気にやろうとするとプログラムが多過ぎる印象がある。
※	市民講座の充実、高校生の参加を増やすべき。シンポジウムの動画配信などやればよいと思う。合コンパーティーはいらない。
※	始めて参加しました。興味深い研究があり、刺激になりました。
※	一研究者として、自分の研究ができれば知的好奇心を満たせばそれで幸せなのですが、そうした幸せを維持するためには、取り組まなければならない様々な問題があるということに気付かされた学会でした。幸せに研究を続けていけばもっと後まで気付かなかつたらうし、気付いた時点ですでに手遅れかもしれない問題ばかりでした。そうした問題意識の芽生えや問題に対して具体的に何が出来るかを考える良いきっかけになりました。アート企画やジャズ企画などは、アウトリーチという意味合いだけでなく、純粋に学会会場内に存在した心地よい空間として楽しめました。すべてを毎年行うのは大変かもしれませんが、それぞれの企画を隔年で行うなどの工夫をして、継続してもらいたいです。最後に、数々の工夫を凝らした企画の計画・運営お疲れさまでした。
※	椅子が足りず立ちながらセミナーに参加することが多かったです。もっと広い部屋でキャパシティを増加して頂きたい。
※	大きい学会で新しい人と知り合えるかと期待していましたが、逆に大きすぎて、皆さん自分の知り合いと話すばかりで、つながりがあまりない私には入っていけない感がありました。大きな学会ゆえに、ネットワーク作りを助けるような企画がもっとあってほしいと思います。しかしながら、いろいろおもしろい企画があり、すごく工夫もされていて、近藤先生はじめ、企画に携わった人たちの素晴らしい努力は見えました。今後もこういった企画があると嬉しいです。
※	今回の海外研究者招聘企画で参加させてもらった。自分が恩恵に預かったからだけでなく、客観的に見ても魅力的な発表が増えて非常にいい試みだったと感じた。留学に興味のある学生が質問に来る、関連分野の国内研究者と最新の情報の共有ができるなど、国内の研究者にとっても有意義であったと思う。ただ、米国東海岸からの航空券には10万円では足りず、例えば居住地区に応じて支給額を変えるなどの制度があると更にいいかもしれない。全体を通して年会委員会の「学会を変える」という意気込みや取り組みが伝わってきて、これから期待できる素晴らしい年会だったと思う。もう10年近く分生に参加してきたが、今回が一番「チャレンジ」を感じた学会だった。委員会の方々、本当にありがとうございました。来年また参加できることを楽しみにしています。
※	神戸での開催に参加したの二度目でしたが、やはり朝の電車も混むし、会場はバラバラですし不便でした。大きい学会なので、開催できる場所が限られていることは分かりますが、もう二度と行きたくないです。
※	日本分子生物学会のあるべき方向性を打ち出した歴史に残る学会だったと思います。来年以降もこの方向性はぜひ踏襲して欲しいと強く感じます(コピーである必要はないですが)。
※	4年ぶりに参加したが、頭の中をrefreshさせたり、最近の流行的な実験、結果をfollowするのに役立った。毎年参加するのはあまり価値がないように思ったが、隔年または3年ごとくらいに参加する事ができれば、役に立つ学会であると思う。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	ポスター、ワークショップ、シンポジウム等さまざまなイベントの会場が、あちこちに分散していて、移動が面倒だった。特に寒い時期だったので、移動の度に屋外に出なければならぬのは苦痛だった。すべてのイベントを一つの大きな建物の中で行なってもらえれば、上着を預けておくことも出来て良いと思った。
※	何年も参加している先生方には「マンネリ」でも、毎年新しい学生が参加する学会であるので、「マンネリ」でもよいのでは？
※	今回のJAZZ企画のように、小さめのコミュニティで様々な分野の研究者が集まれる場所があれば、新たな研究の芽を育てることができると思う。研究では人と人が知り合うことは大事なことだと思うので、今後も続けていきたい。そのようなコミュニティに対する学会の関わりは、もしかしたら今回のような学会特別企画ではなくもう少し簡単なものでもいいのかもしれない。しかしこのような規模の学会の存在意義を考えると、学会が研究者の交流を促進する役割を持つのも重要ではないだろうか。
※	「大屋食会」のような試みは今後も是非継続して行ってほしいと思います。学生から大御所の先生まで、みんなが楽しめる学会は大変素晴らしいと思います。ありがとうございました。
※	非常に工夫のこらされた学会だったと思います。サイエンスセッションとそれ以外(アート、ミュージックetc)が両方参加出来る工夫も今後必要かと思いますが、今後もなんらかの形で是非続けたらよいかと思います。
※	来年以降も海外で働く日本人ポスドクへの旅費支給制度を設けて頂けると嬉しいです。金銭面で助かるだけではなく、分子生物学会から支援を受けるということがステイタスになりますので(ついでに締切が遅い時期であればあるほど助かります)。助教&ポスドク同士のネットワークを広げるための企画や、ポスドク向けの就職活動・キャリア情報収集の場も設けて頂けると嬉しいです。
※	・今後は、不正問題やポスドク問題以外にも、ラボの中で起こっている問題に対処してほしい。ポスに対する不満、いじめ、アカハラやセクハラなど。なかなか表に出ない問題に切り込んでほしい。そして、最近は鬱になってしまい、ラボに来られなくなる人が増えているので、対処事例も伺ってディスカッションしたい。・ガチ議論だけでなく、いろいろな企画を配信してほしい。この輪に加わりたい、行きたいと思う人が増えるのではないだろうか。・快適で安全なラボ(古いところだと、そうでないことが非常に多いと感じる)にするにはどうすればいいのか、ラボの立ち上げ、ラボのリノベーションなど、事例を紹介する企画が欲しい。やっている実験の内容やラボの規模でいろんな状況があると思うので、そのまま参考にするのは難しいかもしれないが。・今後の年会でも何か企画をしてほしい。むしろ、なにかやりたかったら手を上げればやることのように、間口を広げてほしい。よろしくご意見致します。